

---

# 魔法少女リリカルなのは 蒼き焰の龍神と星光を携えし少女

霧丸

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 蒼き焰の龍神と星光を携えし少女

### 【NZコード】

N13660

### 【作者名】

霧丸

### 【あらすじ】

作者が息抜きに「連載しようかな~」

と考えている奴のプロローグのみを載せていて

読者様の意見しだいで連載を行いますがその際は文章が大幅に変更されると思います

あくまで 版なので

(前書き)

少し息抜きに書いてみただけですので続もせん  
やつてほしことこわれば連載版を上げます  
プロローグのみですのでもおつむしてください

“ザアアアアアアアアアア”

雨が降っている…

天より降りし恵みを「え、時に災厄をもたらすそれは

今、俺の体を打ちつけ急速に体温を奪っていく…

もはや、起き上がるどころか視界も不確かなその状態で俺は神社の境内に横たわりその曇天を見上げている。

胸の真ん中よりやや左に位置する場所には人の腕ほどの風穴があきその風穴に納まっているはずの心臓はもう存在しない夥しい量の血液が溢れては雨によつて流されていく…

血液と体温が不足し視界が失われつつある中俺の顔を覗き込む少女の顔がやけに鮮明に見える…

栗毛色の髪を左右で縛ったかわいらしげインテールにした少女は雨でよくわからないが涙を流しているように見える。

「サヨナラ…みたいだね…」

「いやなの…こんないやなの…」

今年で4つになる彼女は俺にそつ告げるがもはやどうしようもない。

「俺は…ゴフツー…満足さ…君のおかげで…ゴフ…欠けていたものは埋まつた…だからもう何もいらないんだ…」

肺を傷つけられたのか血を吐きだしそうになるがこられて飲み干す、彼女を俺の贋物の混じつた血で汚すわけにはいかない

「いやなの…またあの木の下で一緒にお昼ねしたいの…また子守唄歌つてほしいの…ずっと一緒にいたいの…だから、なのはを置いていかないで…」

雨に打たれながら少し舌つ足らずで俺にうつたいかける少女…彼女をみてこの半年の思い出が様々な光景が脳裡に浮かんでは消えていく…走馬灯というやつだろう。

彼女への気持ちが溢れてくる其れに従い俺ができる最善を行う

「…」

最期の力を振り絞り俺は、懐から一つの宝石を取り出し彼女に差し出す

「これは…？」

宝石を俺の手ごと握り締め彼女は問いかける

「“心燐”、それに“ハートレスジュエル”…ゴフツ…いいかい心燐はいつか必ず君の求める君の力…ゴフツ…なるつ…もうひとつは…願えれば俺と出会つ前の君に戻れる…」

「出会い前の…わたし…？そんなのいらないの………なのははこれからと一緒に行きたいの（生きたいの）…！」

不確かな希望を『えるわけにはいかないと黙つていよつと堪えてい

たが、可能性があるなら其れにかけてもいいじゃないか……と俺の中に生まれた感情が暴れまわる

「…こつか…あつと…また出会えるや…」

感情の本流にあらがえず「ロロにしてしまひ。

「ほんとなの?」

「ああ、また出会える可能性はゼロじゃなによ…」

「じつこいつとなの? カノウセイトイビツコハ」となの?」

「俺自身に…少し…細工をしておいた…つまへこなば…また一緒にいられるつうことだよ…」

血がなくなつて来たのか視界は闇に包まれ…血を吐き出しきつくなる感覚も消える…

「…少し長じお別れになるけど…いつかきっとまた出会える…」

「さつとじゅダメなの…—ゼシタイじゃなことだめなの…—」

唯一の感覚となつた触覚で彼女が俺の手を握りしめる力が増したことを感じる

「や…うか…絶対か…なら俺は…必ず帰つてこないとな…じやあつともう…サヨナラの時間…だ…」

見えはしないが俺の体が光に変換され始める…

「サヨナラぢやないの…—また会うの…—だから…サヨナラぢや

ないの……」

確かにそうだなこの別れは永遠にならないならサヨナラじゃないな

「そうか… そうだね… ジャあ…」

「「またね！……」

身体が弾けて光と成り消え去るその瞬間

俺の意識は消え長い永い眠りに就く、いつか再びまみえるその時を  
夢見て…

あれから数年の月日がたつた

ふと私はあれから肌身離さず身につけている紅いまるで植物の種の  
ような形をした宝石と丸い緑色の宝石をその手に取り見つめる…  
あの後、父が倒れ大切な人の命が消えていくのを”また”黙つて見  
ているしかないのはもういやだと心から思つた…  
だから私は、その時その人たち助けるための力が欲しいと思つたそ  
して私は医学の門をたたくこととなつた。

今は小学3年できることなど何もないかも知れないけど…いつか…ま  
た…いつかあの人と再び出会えた時、胸をはつてあの人を迎える  
ように私は日々精いっぱいの努力をして歩み続ける…

そんな日々の中で私は、あの人を使ひによく似たでも全く違う力  
と出会うこととなる

魔法少女リリカルなのは 蒼き焰の龍神と星光を携えし少女

(後書き)

感想もらえると作者が喜び  
ひやつはーーーーーってなつて続きを描くかもしません

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1366o/>

魔法少女リリカルなのは 蒼き焰の龍神と星光を携えし少女  
2010年10月27日04時06分発行